

みよどが いり 三淀ヶ入の清流・布川にある大岩に、おおいわ はんにくぼり 半肉彫、34体の観音像かんのんぞうがあります。これは、約260年前に彫られたもので、しもがみやま がいぶつ 下神山磨崖仏と呼ばれています。誰が、何を願って彫ったのかわからないのですが、むらいし 村石地区にはこんな話が伝わっています。

おもんさま

ずーっとむかし、村石部落に、おもんさまという婆様ばあさまが住んでおりました。このおもんさま、村石に嫁入りしてから、「子が欲しい」と願い続けていましたが子宝こだからに恵まれません。

ある晩のこと、おもんさまは何やらあんまりまぶしくて目をさました。よくよく目をこらして見ると、金色こんりきのけさ衣ごさもを着たお坊様ぼうさまが立っていらして、「おもんさまよ、子のないことをうらむでないぞ。これからは仏ほとけにつかえる身となって、天命てんめいをまっとうせよ」とおっしゃったのです。

夢か 幻まぼろしか、ふと気がつくともう夜が明けていてお坊様の姿はどこにもありません。おもんさまは、仏様のありがたいお告げだと考え、さっそく石屋を呼んで、布川あらいわの大岩おおいわに西国三十三観音かんのん ぞうの像を彫ってもらい、毎日一生懸命いっしょうけんめい拝んだのです。

その後、おもんさまは大往生だいおうじょうをとげました。村石の人たちは、三十三観音かんのんの隣となりに一体の供養像くようぞうを彫り、おもんさまの冥福めいふくを祈ったということです。

